

68.9.24
No.22

東京教育大学文学部自治会
斗争委員会宣伝局発行

コソミテリ 25日学生大会を要求貫徹の 強固な同志でうめつくせ！

登校された教育大のすべての学友諸君ひとりわけ
90余日にわたる本館封鎖斗争を斗い抜いてきた文学
部学友諸君。まず25日各学部学生大会を前にして
全学ストの展望について語り、現在表われている二
つの傾向に対する批判を行うなかで、斗いの方向性
を指し示したい。

■ 9.25 学生大会の獲得目
標は要求貫徹の強固な意
志に裏付けられた長期ス
トライキである。

試験全学ボイコットで
斗いの攻勢への転化をか
ちとろう。

25日の学生大会を全学スト の総決起集会とせよ！

9.20理学部スト突入によつて全学ストへの突入
口は切り開かれた。たしかに全国的な理工系の斗い
の困難性をうちやぶり、推進派の牙城、懇親、団交
係動の環でのストライキの意義は高く評価するが、
しかし斗争が抗戦スト的弱点、即ち要求貫徹の意志
の不十分性を含んでゐるし、若干みらせる代行主義
の工ホルギーと仮想させ、斗いの方向性と責任
追求にゆがめでいくとい、た無指導性にも規定され
て、理学部の斗いは困難な局面をもかえてゐる。し
かし諸君、現在最終局面をもかえた波移転に伴し
全学ストを導く抗戦延期ストに落としこめとはい
ふれず、学生自治会は单なる圧力封廻でも、おしゃべ
り杆廻でもない。強い學生自首权確立の要求をかか
げ、学生戻の意志と結束して斗い抜く斗争杆廻であ
る。9.25学生大会はこうい、た学生戻の筑波移転であ
勝利の要求貫徹をかかげて、理教投公の彈圧、懲系
暴動、即ち円満解決へ暴動を最終的に粉碎する斗
いの場であるが、学友諸君、文学部につづく斗いの
趣向を早急にね檠しよう。

単なる試験延期お願ひ運

動から被別し全学試験ボイ
コットをかちとれ。

単なる試験延期お願ひ運

ホしえない内で一一民主的幹部長、評議員選出に問
題をりかえ、「方針」を提示していくが、今我々
が斗いする筑波移転を一般的な国民正義斗争にお
さかえ学友のエネルギーと振舞させているのだ。一
教育学部の自首公運動の復权をめざして斗い、そ
の框架から解き放さると曰後斗つゝいる。学友諸君
のE館の完全自主集会をかちとり、大爆封廻をかち
とろう。

農学部においても同様に、責任追求、「五道房
制」へと学友の目をかえさせて、單なる抗戦ストへ学
友の斗志を押しこめ、傾向を批判し、自首公の
学ストを実現せよ。單なる抗戦ストへの答としこれ
と向處のりかえ、種々な援助をのりこえ、
と確認すべきだ。

また、文学部の一部にも見られる傾向に対しても
批判を行いたい。それは、我々が今まで例のため
斗い、またの外を忘れ、一般的論し合いでおめるス
ト破壊運動である。自らの主張の外にまことに、内
の主体的立場もなく、一般的にストリーミングし、本
體的傾向「暴力」、「若効家」×「一般学生」とい
うおしゃべりしを現在要求しているわけでもないこ
とを確認すべきだ。

9.20理学生大会に象徴される「突厥(831-1091)
年)か彼らはとりえりといいう実体的な、クラス
討論とも提起していなかつた。」他學部執行部系

諸君の相談は、現在執行部を拒んでいるが故に、か
えつゞぎの黒方針、無指導性は犯罪的である。現在
彼らの本しまいる「方針」は既に破産を學友小目的
前にからした一飛内學民主化である。そこの事
き出されるものは、悪玉へ反対し出し、「善玉
へ民主化」まげかえ運動川學長、四學部長辞任と
、一段の抗議し合いの場要本にすぎない「五者協議
」に起きたによる筑波斗争からの逃遁である。彼らは更
に我々のことを「筑波斗争を斗う学友の団を本館封
鎖にからせている。レトイフマリが、実際学たの
因をもよろしくいふのは彼らの「本館封鎖解除
路線」で、かもの有のだ。彼らの自治会活動小室開化
スマストから逃避をまぬき、理學部スマストの強化の
任ムを放きし「斗う学友のエネルギー」を集め、クラ
ス討論の「馬鹿等」といた結集点の不在によつて拡散
させマリる)、教育学部においては方針を示しまず
農学部においてもしかりの状態の中で「斗争の妨
害物へとなりさがつマリ。學友諸君のこゝよりは
傾向をうちやぶり、明確に全學試験ホイコットを、
変色の悪化としくからとろう。

筑波斗争の勝利は、ピケット トの為のストライキ斗争ではからとれな。

彼らは我々に対し「文自斗争委員会」は内実の強
化とか、新しい秩序となつてゐるが、やつまつて
いぐはらりかと「うれ」判行つてゐる。我々はそ
の実において内実が悪化と言葉としてではなく、夏
に斗争勝利の展望としていいかなければならぬ。今
一般的にお詫し合ひしによつて斗いを終焉させよう
といふ傾向や「お詫し合ひ根岸の要求」という傾向
を叫んでゐる諸君に対し、我々は眞体ともして、自
治能力の向上を不斷に、理教育過程の荒廃に対する
我々のクラス活動の蓄積をふまえ、この斗争の中
でいみんかく彼らにつきつけて「戦術左翼」「極左日
和見」して彼らの中傷に対する必要がある。学生
自治会を圧力株元、セービス株元、同業組合へとお
どしこめ、凶悪販商における分断支配の漫延を訴
じ、学生自治会活動を空洞化させていたる傾向や、學
生自治会活動にも参加せず自治の問題すら自にしえ
ずして一般的に「話」し合はれて対話」を求める傾向
これと裏裏の關係にある教授リラ管理事者「神喜百」
の貫徹のもの(アヒム)、それはとりもかねて学生
自治会運動の「封鎖解除」をも標榜(?)して

ければならぬものであることは再三強調してきた。
現教育過程の荒廃への批判と、イデオロギー化さ
れ空洞化した教科会自治を通じて發送してきた田大
協路線が打破を貫徹するがたゞ教育過程の自己統治
をからだつて、斗いは、正にクラス活動の蓄積を
ふまえて「スマストライキ斗争の内容」に則り、
いふかといふ問題にまつて、
学友諸君と毎日市公会堂前、市役所前、
を妨げるもあれば、それをえし、全學ストを攻じ
へ少松化とせよ。

ヘスローガン

○ 調査費計上白紙撤回

○ 対訴議会大衆団交実現

○ 本館封鎖対策本部解体

○ 学生自治権を否定し、政府

○ 独占の大字支配を補完す
る因大協路線打破

○ 本館封鎖を結集点に全學

○ 全國学友との共同行動を

○ 四大協路線打破、学生自

治権確立、学園斗争勝利

○ の口号一が一のもとにからとろ
う。

○ 25日(火)学生大会は
3:00PMからです。

本館前学生
斗争委員会

6月6日

2000年全學
斗争委員会

5月25日(火)学生
斗争委員会